

I. 聖書の神聖な啓示によれば、二本の木、二つの源、二つの道、二つの原則、二つの終局があります:

A. 命の木が表徴しているのは、人と神との関係における、人の命である三一の神です。善悪知識の木が表徴しているのは、神の御前で人の墮落における、人の死である悪魔サタン、すなわち、あの悪しき者です。**B.** 命の木は、命としての神を追い求めて、供給と享受を得る人の源です。善悪知識の木は、毒としてのサタンに従って、死と永遠の滅びへと至る人の源です。**C.** 第一の道は、命の道、すなわち狭められている道であり、人に神を追い求めさせ、神を獲得させ、永遠の命の中で供給としての神を享受させます。第二の道は、死と善悪の道、すなわち幅広い道であり、人をサタンに従わせ、サタンの子供たちとならせます。**D.** 第一の原則は、命の原則、すなわち神に依り頼む原則です。第二の原則は、死と善悪の原則、すなわち神から独立する原則です。**E.** 二つの終局は、二本の木、二つの源、二つの道、二つの原則の最終結果です/神の命の道の終局は、命の水の都、すなわち新エルサレムです/死と善悪の道の終局は、火の池です。』

II. 神の意図は、善悪知識の木の路線にあるヨブを得ることではなく、命の木の路線にあるヨブを得ることでした:

A. ヨブと彼の友の論理は、善悪知識の木の路線にしがっていました。彼らには神聖な啓示がなく、神聖な命の経験もありませんでした。**B.** ヨブは彼の友のように、正しいか間違っているかの知識ことどまっておき、神のエコノミーを知りませんでした/ヨブも彼の友も、神が人に定めた命の木の路線にいませんでした/人と神との関係に関する彼らの観念は、善か悪か、正しいか間違っているかのの上に建て上げられており、完全に善悪知識の木の原則にしがっており、墮落した人の、人に属する倫理的な観念に完全にしがっていました。**C.** ヨブと彼の友は、善悪知識の木の領域にいました。神は彼らをこの領域の中から救い出して、命の木の領域の中へと入れようしました。**D.** ヨブを対処することでの神の意図は、ヨブを善悪の道から命の道に転向させることでした。それは、ヨブが最も満ち満ちた程度にまで神を獲得するためでした。

III. 私たちは命の木のビジョンを持つ必要があります:

A. 命の木が表徴しているのは、三一の神がご自身をキリストの中で、食物の形で彼の選ばれた人の中へと命として分与するということです。**B.** 命の木は宇宙の中心です/神の目的によれば、地は宇宙の中心であり、エデンの園は地の中心であり、命の木はエデンの園の中心です。ですから、宇宙は命の木を中心としています/神と人にとって、命の木よりも中心的で重要なものはありません。**C.** 新約は、キリストが命の木のしるしの成就であることを啓示しています。**D.** ヨハネによる福音書が啓示しているすべてを含むキリストのすべての面は、命の木の結果です。**E.** 命の木を享受することは、神の贖われた民すべての永遠の分け前となります/命の木は、神が初めに人のために意図したことを実現して、永遠に至ります/命の木の実は、神の贖われた民の食物であり、永遠に至ります。これらの実は絶えず新鮮であり、毎月みのります。』

IV. 創世記2:9の二本の木(命の木と善悪知識の木)は、生活の二つの原則を表しています:**A.** 二本の木が示しているのは、クリスチャンが二つの異なる原則(正しいか

間違っているかの原則あるいは命の原則)にしたがって生きることがあり得るということです。**B.** ヨブと彼の友は、倫理の領域にあるものを追い求めていましたが、私たちキリストにある信者は、神の領域にあるものを追い求めるべきです。**C.** クリスチャンであることは、正しいか間違っているかの原則や、善悪の原則の事柄ではなく、命の事柄です/私たちは主イエスを受け入れ、新しい命を獲得したとき、もう一つの生活の原則を得ました。それは命の原則です。もし私たちがこの原則を知らないなら、命の原則をわきに置き、正しいか間違っているかの原則に従うでしょう/私たちは実際生活において、命の木の路線におらず、善悪知識の木の路線にいるかもしれません/私たちは日常生活において、善悪知識の木の領域にいるべきではなく、命を与える霊の領域にいるべきです/私たちは命の木の原則にしたがって生きるために、命の内なる感覚に従う必要があります/消極面で、命の感覚は死の感覚です/積極面で、命の感覚は命と平安の感覚であり、強さ、満足、安息、明るさ、慰めを感じます/私たちは命の木の原則にしたがって生きるとき、善悪を顧慮するのではなく、命を顧慮し、正しいか間違っているかにしがってではなく、命か死かにしがって物事を識別します。

V. キリストにあるあらゆる真の信者は小型のエデンの園です。信者の霊の中には命の木としての神がおり、信者の肉の中には善悪知識の木としてのサタンがいます:

A. 私たちが小型のエデンの園であるのは、神と人とサタンと関係のある三角の状況が、今私たちの内側にあるからです/人が墮落する前、善悪知識の木と命の木は、人の外側にありました/墮落を通して、善悪知識の木は私たちの中にあります。再生を通して、命の木は今や私たちの中にあります/私たちの霊は三一の神とミングリングされており、肉となった私たちの体は、サタンの罪深い要素と混ざっています。これはクリスチャンを小型のエデンの園にならせます。**B.** 私たちは創世記第2章のアダムによって表されている者として、私たちの霊の中に命の木を持っており、私たちの肉の中に善悪知識の木を持っています/私たちは善悪知識の木と接触するときはいつも、死にます。私たちは命の木と接触するときはいつも、命を得ます/もし私たちが善悪知識の木の側に立ち、サタンと接触するならば、私たちは悪魔サタンの命を生かし出し、その結果は死です/もし私たちが命の木の側に立ち、神と接触するならば、私たちは神を生かし出し、その結果は命です。

C. ローマ8:5~6は、小型のエデンの園を見せています。一方に肉と死があり、もう一方に霊と命があり、中間に思いがあります/私たちがローマ8章から学ぶことは、私たちの存在を私たちの霊の中に住んでいる生ける方へと向け、彼と共にとどまる必要があるということです/私たちは思いを霊に付けるとき、命、平安、光、慰め、力を持ちます。私たちの渇きはいやされ、私たちの飢えは満たされます/私たちは思いを霊に付けるとき、私たちの思いは命と平安に満ちます/私たちが平安を持つのは、私たちの外側の行為と私たちの内なる存在の間に不一致がないからです/私たちが思いを霊に付けて語るとき、命が私たちの言葉に具体化されます。なぜなら、私たちは主と一つ霊であるからです。

CP1: 思いを霊に付けると、人知を超えた平安があり、命の道を歩むことができ、前に向かって前進することができる

OL1: 聖書の神聖な啓示によれば、二本の木、二つの源、二つの道、二つの原則、二つの終局があります。**創2:9** エホバ・神はその土地から、見て喜ばしく、食べるのに良い、すべての木を生えさせ、さらに園の中央に命の木と、善悪知識の木とを生えさせられた。**17** ただし、善悪知識の木からは、食べてはならない。それから食べる日に、あなたは必ず死ぬ。

命の木は水の都で終わり、善悪知識の木は火の池で終わります。啓示録22章のすべて邪悪なものは、火の池と関係があります。ですから、二つの終局は水の都と火の池です。二つの源と二つの終局の間には二つの路線があり、それは二つの道となります。

第一の木はただ命としての神を表徴し、他の要素の暗示はありません。...第二の木は死としてのサタンを表徴し、知識、善、悪の暗示があります。神は単純ですが、サタンはとても複雑です。神聖な啓示によれば、知識はサタンであり、善はサタンであり、悪はサタンです。今日この世は知識を礼拝する時代にあります。善悪知識の木の実を食べる前、アダムとエバは無知で、知ることがなく、それゆえに罪がありませんでした。彼らが知識の木から食べた後、彼らの目が開かれ、彼らは知識を持つようになりました。それは罪でした。私たちはみな、罪を犯すことが罪であると考えますが、罪を知ることが罪であるとは考えないかもしれません。

真の善は神ご自身です。ですから、神を獲得することは真の善を獲得することと等しいのです。金持ちの若い役人が主イエスの所に来て、彼を「善い先生」と呼んだとき、主イエスは言われました、「**なぜあなたは私を善いと言うのか？ 神おひとりのほかに、善い者はいない**」(マルコ10:17-18)。もし神以外に、私たちが他のいかなる善をも獲得するなら、それは恐ろしいことです。もし私たちが神以外に善いものに触れるなら、これは私たちがサタンに触れることを意味します。

第一の原則は、命の原則であり、それにしたがって命の道にあるすべての人は神との接触を保ち、それによって一步一步、神を追い求め、神を獲得し、神を所有し、神を享受して、最も満ち満ちた程度にまで至ります。

第二の原則は、死と善悪の原則であり、その中で死の道にあるすべての人は、意識的にであれ無意識的にであれサタンに従い、それを通して神と神の命の道を拒絶し、サタンの仲間となって死と永遠の滅びへと至ります。

二つの終局は、人が神との関係の中で取る二つの道の二つの到着点です。新エルサレムは、神の命の道の最上で最高の栄光ある終局であり、ダイナミックな奨励であって、私たちが神を追い求め、神の愛と恵みにしたがって彼を最も満ち満ちた程度にまで獲得するためです。火の池は、死と善悪のサタンの道の最悪で最も悲惨な終局であり、神のエコノミーに逆らってサタンに従う者に対する厳粛な警告となるべきです。それは、彼らが死の道から神の命の道に転向して、神の義と公正にしたがって、サタンの永遠の裁きと永遠の滅びを逃れるためです。

適用:新人及び青少年、大学生編

あなたは善悪知識の木から食べるのが小さなこと、又は少しぐらいであれば構わないことと考えてはいけ

ません。善悪知識の木から食べることは、あなたを間違った方向にクリスチャン・レースを後退させるのです。

あなたを対処することでの神の意図は、倫理にしたがった善悪の原則から神にしたがった命の原則へと、神との関係についての彼の論理(考え方)を調整することです。常識や文化に従うのではなく、あなたの思いを開き、思いを霊に付けてください。命が霊から思いに分与され、あなたは神の霊によって導かれます。**ローマ8:6** 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。**14** なぜなら、神の霊によって導かれている者はみな、神の子たちであるからです。

兄弟の証: 修士課程を受験することを決めて勉強している時、なかなか勉強がはかどらず焦っていました。そして、合格しないのではないかと不安になって度々次のように祈りました、「主イエスよ、3年間クラブ活動に熱中し、あまり勉強して来なかったので、大学院の入試勉強は大変で、あまりはかどっていません。しかし、就職活動していないので、もし合格できなければ大変です。合格すれば何とかできるので、とにかく合格させてください」(当時、中途採用はほとんどなかったため、大学院に合格できなければ、1年間就職浪人するか受験浪人する必要がありました。そのようなことをする人はいませんでした)。このように何度祈っても、何も平安はありませんでした。ある時祈った後、主が私に、「あなたは私を愛しているのか、あるいは私の与える祝福を愛しているのか?」と語りかけました。私は直ちに、「そんな堅いことを言わずに、合格させてください、いくらでもあなたを愛しますので、とにかく合格させてください」と答えました。このようなやり取りが3回ありました。そして毎回、内側が不安で満たされていました。そして、私は主を変えられないことを理解し、最終的に、思いを霊に付けて、「主よ、私は悔い改めます。私の心の不純を赦してください。合格しても、しなくてもあなたを愛します」と祈りました。このように祈った後、直ぐに人知を超えた神の平安が私を満たしました。同時に、主が進学を導いているという感覚を得ました。その後、周りのほとんどの人の予想に反して、私は合格できました。大学院受験について、私は必死でしたので、多くのことを学ぶことができました。**①** 主イエスに対して純粋な心を持つ必要があるため、主の外側の祝福を愛するのではなく、主ご自身を愛する必要がある。**②** 思いを霊に付けると、人知を超えた平安がある。この命の感覚の中で主の導きと祝福があり、前に向かって前進することができる。**③** 思いを肉に付けて祈っても、平安はなく、焦り、不安、などの死の感覚しかなく、導きも祝福もない。**④** 宇宙の中心は命の木であり、私は神の定められたこの計画を変えることはできないことが分かりました。

祈り: おお主イエスよ、私を対処することでの神の意図は、倫理にしたがった善悪の原則から、神にしたがった命の原則へと、私の考え方を調整するためです。常識や文化に従うのではなく、思いを霊に付け、神の霊によって導かれることを願います。思いを肉に付けて、善悪知識の木から食べるなら、平安はなく、焦り、不安、などの死の感覚しかなく、導きも祝福もありません。思いを霊に付けて、宇宙の中心である命の木に来て、キリストから食べます。アーメン!

CP2: 命の木は宇宙の中心である。献身を更新し、ビジネスライフにおいても命の木の路線を歩み前進する

OL1: 神の意図は、善悪知識の木の路線にあるヨブを得ることではなく、命の木の路線にあるヨブを得ることでした。

OL2: 私たちは命の木のビジョンを持つ必要があります。**ヨハネ11:25** イエスは彼女に言われた、「私は復活であり、命である」。**6:48** 私は命のパンである。

アダムは善悪知識の木から食べました。ですから、この木はアダムの中へと植えられて彼の内側で成長し、アダムの子孫のすべての者の中で成長してきました。ヨブの時代に善悪知識の木は2000歳にすぎませんでしたが、今は6000歳です。今日、全人類は善悪知識の木にしたがって構成された種族です。...この木が人類の間で成長しつつある限り、平和はありません。

私たちは再生される前、善悪知識の木の路線にいました。私たちが再生された時、キリストはご自身を命の木として私たちの中へと植えられました。

例えば、結婚生活の中で、私たちは知識の木の路線にいるかもしれません。そして配偶者と話す方法によって、この木を成長させるだけでなく、それに水を注ぎ、肥料をやっているかもしれません。それでは、私たちはどうすべきでしょうか？ 私たちは**ガラテヤ2:20**のパウロの言葉を覚えている必要があります、「**生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです**」。そして知識の木から命の木に転向する必要があります。

ヨブは彼の友のように、正しいか間違っているかの知識にとどまっており、神のエコノミーを知らず、神が人を創造した定められた御旨を十分に認識しませんでした。彼と彼の友には神聖な啓示がなく、神聖な命の経験もありませんでした。彼は、神には完全、正しさ、義、高潔さを増し加える意図がないことを知りませんでした。その反対に、神の意図は、彼が満足していたこのすべての人性の美德をはぎ取り、神ご自身だけを追い求め、獲得することでした。彼の友も彼も、神が人に定めた命の木の路線にいませんでした。

例えば、私たちは語ることに主と一つ霊になる必要があります。私は主のために語る前、一つの簡単な祈りをします。「**主よ、私と一つ霊になって、私があなたと一つ霊であるようにしてください。主よ、私が語る中で語り、私の語ることをあなたの語ることにしてください**」。これは、神の永遠のエコノミーの分与の中で生きることです。私たちはこのように生きて語るとき、神聖な分与を享受し、キリストは私たちの内側で増し加わります。キリストは私たちの中で成長され、私たちはキリストの中で成長します。

仮にあなたとあなたの配偶者との間に問題があるとします。あなたは何もすべきではありません。なぜならあなたが行なうことは何であれ、善悪知識の木の領域にあるからです。あなたはただガラテヤ2:20を祈り読みすべ

きです。...問題やあなたの怒りに注意してはなりません。ただあなたの中に生きておられるキリストに注意なさい。

命の木は宇宙の中心です。神の目的によれば、地は宇宙の中心であり、エデンの園は地の中心であり、命の木はエデンの園の中心です。...神と人にとって、命の木よりも中心的で重要なものはありません。

適用:ビジネスパーソン・大学院生編

神のエコノミーによれば命の木は、宇宙の中心の中心の中心です(下図参照)。あなたは命の木をあなたのビジネスライフ、研究生生活、家庭生活の中心に据えてください。

兄弟の証し: 大学院卒業後、5年間全時間奉仕をして30歳になる前から仕事を始めました。仕事を始める前、「**主イエスよ、私は全時間奉仕の霊を持って、仕事をします。私は全生涯、全時間奉仕をするつもりでしたが、主の導きの下でこれからビジネスパーソンになります。しかし、私は全時間奉仕の霊を持って働きます。私の本業は、キリストと召会の命の道を歩むことです。私のビジネスは副業です。本業で失敗すると、仮に副業が祝福されても、私の人生は失敗です。私の人生が失敗に終わらないようにしてください。私は今、献身を更新します。ビジネスライフにおいて、日ごとに私の思いを更新してください。私を勝利者の一人にしてください**」と祈りました。

実際に仕事を始めると、次のような問題があり、私のロジック(考え方)が新しくされる機会となりました。

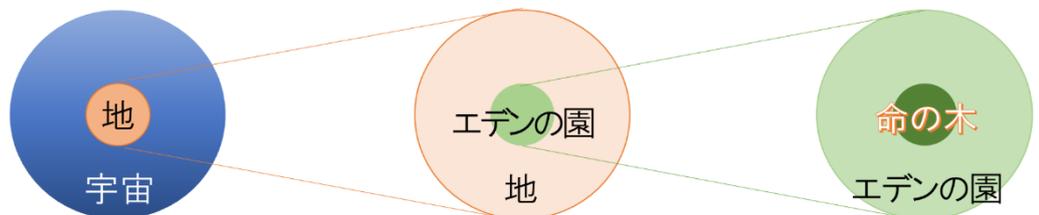
① 周りの人は皆、野心があるので、周りの人から野心の無い私が異様に映り、やる気がない人と取られていました。給料をもらっているのに、会社に貢献しなければならぬという社会人としての責任感と常識に欠けていたことは事実でした。この点については、悔い改める必要がありました。

② 夜の飲み会で、人間関係を築いていく、日本の古い非効率で、本質から逸れたやり方がまかり通っていることに驚きました。将来自分が管理者になったら、この点を改めるだけで、他者に比べてかなり優位性があるとの仮説を立てました。管理職になった時に、このことを試してみると、社員のやる気を引き出すことで優れた効果がありました。実は、ほとんどの人は頻繁な飲み会に疲れ果てていたのです。

③ 伝統的な影響から、日本の社会は、明らかに女性社員に対して差別的観念を持っています。しかし、自分ではそのような観念を持っていないと主張しています(例えば、東京オリンピック組織委員会の前会長の発言)。私が直属の部下を決める時、能力順に選んだ結果、7名の部長は全員女性になりました。

献身を根拠にしたビジネスライフは、私の思いを更新する実際的な機会に満ちていました。誰をリーダーにするのかについて考慮する時、思いを霊に付けて、日本の文化的なロジック(考え方)から救われ、合理的な考えを持ち、成功しました。召会生活の実行についても、姉妹たちの機能は極めて重要だと思います。

命の木は、
宇宙の中心の中心の中心です



CP3: 絶えず思いを霊に付ける訓練をし、

キリストを命の木として享受して、命の道にとどまる

OL1:創世記2:9の二本の木(命の木と善悪知識の木)は、生活の二つの原則を表しています。

OL2:キリストにあるあらゆる真の信者は小型のエデンの園です。信者の霊の中には命の木としての神がおり、信者の肉の中には善悪知識の木としてのサタンがいます。ローマ 8:5 なぜなら、肉にしたがっている者は、肉の事柄を思い、霊にしたがっている者は、その霊の事柄を思うからです。6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

人は三部分から成っています。人には霊、魂、体があります。霊は私たちの最も内側の部分であり、体は私たちの最も外側の部分であり、魂は私たちの存在の主要部分であって、霊と体の間にあります。墮落の結果、知識の木であるサタンが、人の肉の中へと入って来ました。私たちがキリストを信じた結果、命の木である神が、私たちの霊の中へと入って来られました。ですから、かつて園の中で人の外側にあった二本の木は、今や私たちの内側にあります。一つは私たちの肉の中にあり、もう一つは私たちの霊の中にあります。ローマ 7章を注意深く読むなら、パウロが自分の肉の中に善なるものが住んでいない、ただ罪だけであると言ったのを見るでしょう。罪は実はサタンの邪悪な性質です。罪が私たちの肉の中に住んでいると言うことは、邪悪な者であるサタンが、私たちの肉の中にいることを意味します。ローマ 8:16は、神が私たちの中におられることを証明している節であり、神の霊が私たちの霊と共に証してくださると言っています。

創世記 2 章で、二本の木は客観的でした。ローマ 8 章でそれらは主観的です。この二本の木はもはや自分にないと、決して言うべきではありません。...私たちは彼に戻り、思いを彼に付けるとき、命、平安、光、慰め、力、私たちの必要とするすべてを持ちます。

私たちの存在をミングリングされた霊に付けるために、私たちは祈る必要があります。何と容易に私たちは、霊の中の神聖な霊からそらされることでしょうか! 私たちの思いはとても速やかに他の事に引き付けられます。...ですから、あなたは祈りの中で、[愛や忍耐のような]自分の必要に占有される必要はありません。むしろ、あなたの霊の中の生ける方に触れ続けることを祈りなさい。

適用: 奉仕者編

以下は、2021国際華語特別集會「キリストのからだとしての召会の内在的で有機的な建造」の#1のOLⅢです。

Ⅲ. 私たちは絶えず私たちの霊を訓練し、私たちの心を主に向けて、召会の有機的な存在のために、召会の内在的な本質の実際にある、命の道にとどまらなければなりません。**A.** 私たちは命の道を歩き、霊に従って命の木によって生きなければならず、死の道を歩いてはならず、自己に従って、正しいか間違っているかの知識の木によって生きてはなりません。**B.** 私たちが命の道にとどまるのは、極みまで主を愛することによってです。主を信じることは、主を命として受け入れることです。主を愛することは、主を命として享受することです。**C.** 私たちと主との間の愛は、私たちの思想にかかっています。

① II コリント 11:2 でパウロが言っているのは、彼が私たちが一人の夫に婚約させて、清純な処女としてキリスト

に捧げたと言うことです。それは、私たちがキリストに対する正常な愛を持って、キリストを享受するためです。次に3節でパウロが告げているのは、私たちの思い(文字通りには、思想)が腐敗させられて、キリストに対する単純さと純潔を失う可能性があるということです。

II コリント 11:2 あなたがたを清純な処女としてキリストにささげるために、一人の夫に婚約させたからです。3 ところが、私が恐れるのは、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが腐敗させられて、キリストに対する単純さと純潔を失いはしないかということです。

② 人の思想(思い)の以下の病状は、キリストを命として享受することに対するあらゆる妨げです。**a.** 思いをかたくなにすることです。**b.** サタンによってくらまされていることです。**c.** 反逆です。10:4 私たちの戦いの武器は、肉のものではなく、神の御前に力があって、要塞をも破壊し、5 神の知識に逆らい立っている議論や、あらゆる高ぶりを破壊し、あらゆる思想をとりこにして、キリストに対して従順にならせます。**d.** 腐敗です。**③** 私たちは祈るべきです、「おお主よ、私の思想を探り、私の思想を救って、私の思想が単一に完全にあなたに集中することができるようにしてください」。

④ 私たちはキリストを召会の内在的な本質として享受するために、彼に対する燃える愛を持ち、彼にすべての事で第一位を与えなければなりません。**D.** どうか私たちが、絶えず私たちの神のあわれみ深い慈しみを受けますように。それによって私たちは、命の流れの中でキリストを命の木として享受することによって、命の道、命の路線にとどまり、命を維持します。そして命における成長によって、命における神の建造へと至ります。これが、召会の有機的な存在のために、私たちが召会の内在的な本質にとどまることです。

思いがかたくなになると、霊に開けなくなります。思いを肉に付ける方がデフォルト(初期設定)になっており、習慣的に思いを肉に付けてしまいます。ですから、あなたは少し無理して、自分を強制して霊を訓練し、霊に戻るべきです。霊を訓練すればするほど、思いを霊につければつけるほど、あなたはそれができるようになります。思いを肉に付けると、配偶者や奉仕のパートナーを悪く考えるようになります。例えばあなたは奉仕をしている時、思いを肉に付けて競争心が出てきて、「馬鹿にされてはいけけないので、反対しないといけけない」という思いが湧き上がってきました。このような思いは考えれば考えるほど益々湧いてきます。この時、主の御名を呼び求め、「主イエスよ、主イエスよ、主イエスよ、私は思いを肉に閉ざし、霊に開きます。肉に付けられた思いの感覚を考慮しません」と祈ってください。

真の医者であるキリストがあなたの思いの病、かたくなさ、暗さ、反逆、腐敗をいやして下さいますように! **祈り:** おお主イエスよ、私の霊の中には命の木としての神がおり、肉の中には善悪知識の木としてのサタンがいます。思いを霊に付けるなら、命、平安、光、慰め、力など、私が必要とするすべてを持ちます。しかし私は習慣的に思いを肉に付けてしまっています。それは思いの中にかたくなさ、暗さ、反逆、腐敗といった病があるからです。真の医者である主が、私の思いの病をいやして下さいますように。少し無理をしてでも毎日、思いを霊に付ける訓練をします。